

福島県いわき市の大樹さん

特別住民番号2079

私が悪阻がひどくお腹の中では大きくなれなかった子供に大きくすくすくと育って欲しいと“大樹”と名づけました。

“タイキ”ではなく“タツキ”と呼ばせるのは、一度間違われると名前を覚えてもらえることが多いと思い、それを自分できちんと正しく名前を誰にでも言える様にといい名付けました。

“タイキじゃないよタツキだよ”と幼稚園でも先生に言った我が子を見てうれしく思っています。

そんな子供の記念になればと応募したいと思います。

よろしく願い致します。(父)



北海道札幌市の大樹さん

特別住民番号2086

我が家の「大樹」は、平成10年3月5日生まれ、現在一歳半の三男「ひろき」です。

長男、次男と授かった後に生まれてくる次の赤ちゃんは、もちろん桃の節句にぴったりのかわいい女の子「桃子」ちゃんのはずだったのが、とても元気のいい3592gの大きな男の子でした。

おりしも「だんご3兄弟」の唄が流行り始める頃で「よかったねだんご3兄弟で」と言われるお祝いの言葉がなぐさめにも聞こえるような三男誕生でした。

さて桃子ちゃんしか考えていなかった名前をどうしようかと14日間めいっぱい考えることになりました。我が家は苗字の小川が自然の中のものなので長男が北海道をイメージした大地(だいち)、次男が山と日本を意味した大和(やまと)と、二人とも大という字が使われているので、必然的に大の字が含まれ自然の中に関連する名前を探す事になりました。ちょうどその頃、主人が樹木や草花の勉強をして造園をして造園施工管理技士の資格を獲得したばかりで、それにちなみましておおきな木、それが大樹になりました。「たいき」と読ませてもよかったのですが、三人とも同じ文字が使われるので読み方だけでも替えようということで「ひろき」になりました。

末っ子だからなんでしょうが兄弟一の腕白で目が離せない毎日が続いております。言葉もしだいにしゃべるようになってきました。一番最初に覚えた言葉がおかあさんでもおとうさんでもなく、お兄ちゃんの名前の「だいち」と「やまと」でした。いつまでも兄弟仲良く育ててもらいたいものです。

大樹は我が家と近所では「ろっきー」と呼ばれています。このろっきーにいつか、同じ名前の大樹町があることを教え訪れたいと思います。



宮城県鷹乃杜の大樹さん

特別住民番号2091

この様な企画をあてにしていた訳ではありませんが、いつかは…と期待もありました。

昭和58年7月25日生まれの息子、大樹(ひろき)です。

私が小学校四年生から中学一年の一学期までを過ごした大樹町のその字形、読み方がとても印象的で、子どもの名前に使いました。のびのびとした大らかなイメージ。そのように育ててほしい、との希望もありました。現在中学三年の大樹はちょっとだけ希望通りかな？

転勤族だった私の家ですが自我の芽生える時期を送った大樹町での日々はとても



思い出深いものがあります。初恋もありました。その相手とは帯広の高校で先輩、後輩として再会できました。

仲良かった赤玉薬局の長女。彼女とは今もおつきあいをしています。

大樹を去ってからは、訪れる機会もないままですが、息子の名を呼ぶ度にほんわりとした懐かしさが漂ってくるそんな私です。

いつまでも、心の故郷として、私の中にある町。すばらしい町づくりをお願いしたいと思います。

(いつかは大樹を連れて大樹町を訪れてみたいと思っています)(母)

東京都新宿区の大樹さん

特別住民番号2119

初めまして。私、笹田大樹(「おおき」と読む)と申します。現在早稲田大学法学部の三年生です。この「大樹さん募集」は、アルバイト先で良くしていただいた方が、この企画を紹介した新聞記事の切り抜きを送って下さったことで知りました。



大樹町については、以前から名前は知っていました。読みは違っても自分と同じ字ということで興味があり、いつか行ってみたいと思っていました。そこで今回応募するにあたり、大学の図書館等で調べたりホームページを拝見するなどしまして、大樹町について色々と知ることができました。ちなみに、私の実家(福岡県行橋(ゆくはし)市といいます)も同じくコスモスの街として有名でして、市内を流れる川の土手にはシーズンになるとコスモスの花が咲き乱れます。以外な所に共通点があるものですね。

さて、「大樹」という名前についてですが、私はこの名前をととても気に入っています。以前母から聞いた話では、元気に育って多くの枝葉をつけ、その広げた枝葉の中にみんなを包み込むような、そしてみんなから頼られるような人間になってほしいという願いをこめて「大樹」と名付けた、ということでした。

両親の願いどおり、幸いこれまで元気に成長し、木の丈を伸ばすことができました。(実際の身長はあまり高くないのですが…)それは言ってみれば「タテ」の成長ですね。しかし、タテとともに「ヨコ」へも伸びていかなければ、と思っています。すなわち、幹のまわりに豊かな枝葉をつけられるように人間的に広がってゆけるように、これから日々努力していきたいと思います。

最後になりましたが、大樹町のますますのご発展を心からお祈りします。

神奈川県小田原市の大樹さん

特別住民番号2121

1997年12月4日、予定より10日早く、我が家の「たいき」は生まれました。体重2290gとちっちゃな体でしたが、元気いっぱい泣いていたのを思い出します。



私達の初めての赤ちゃんでしたので、名前を考える時は二人とも力が入り、命名辞典を買って勉強したりもしました。男の子か女の子は生まれるまで教えてもらえず、男の子用と女の子用で沢山の名前を考えましたが、なかなか私達二人が気に入るような名前が見つかりませんでした。でも唯一、二人の意見が一致したのが「大樹」でした。

「小さく生まれてきたけれど、大きくて立派な樹も最初は小さな芽から育っていくように心も体も大きく立派な人になってほしい……」という私達の希望と願いのこもった素敵で響きの良い名前がつけられたなと思っています。

1歳9ヶ月の今でも体は小さいのですが、名前の通り?のやんちゃ振りを発揮しています。これからどんな樹に育っていくのか、楽しみでなりません。

大樹町の皆さん、特別住民票をありがとうございました。いつか大樹と一緒に遊びに伺える日を楽しみにしています。(父母)

この度は縁あって大樹町の特別住民に登録いただき光栄に存じます。

また、我が長男大樹(ひろき)の命名について寄稿する機会を与えていただき、重ねて感謝申し上げます。



さて、我が家に待望の第一子が授かるにあたり、考えた点は2つありました。一点目は古来より自然を愛し、自然と共にあった日本人として、やはり自然を連想させる名にしたい。二点目は読みは濁りのないようにしたい。という事でした。漢字もかなも同時に浮かんだように思います。

大樹という命名には「大地に根をしっかりと張る」という思いを反映される方が多いかと思えます。もちろんそれも親としての大きな願いですが、加えて、木かげに人が集うように、人に憩いと潤いを与えられる人に、また自然と人が集まって来るような、そういう人になって欲しいとの気持ちも込めました。

その大樹も今は5歳となり、友達と元気に走り回っています。大きな病気もなく成長して行く姿を見るのは楽しく、また頼もしくもあります。

北海道と大阪はかなり遠いですが、いつの日か成長した我が子を連れて大樹町を訪ねる事を心待ちにしています。

役場を初め、町の皆様におかれましてもご健勝で過ごされますよう浪花の空よりお祈り申し上げます。(父)

大樹(だいき)命名エピソード

大樹には、兄がいます。だから親としては、2番目は女の子がいいなって思っていて、女の子の名前しか考えていませんでした。だから産まれてから一生懸命考え始めました。



兄の方は翔斗(しょうと)と言って、北斗七星の輝く大空へと、翔いて行って欲しいと空にちなんだ名前をつけました。それで弟には、地にちなんだ名前を付けました。大地に深く広く根をはり、ゆっくりでもいいから、少しずつ空高くどんどん大きな樹に育て欲しい。そして、たくさんの人を温かく見守ってゆくオアシスの様な存在になって欲しい。なんてとっても欲張った名前をつけてしまいました。

あと一つは、大空で翔いている兄の翔斗がいつでも樹で休める様にずっと兄弟助け合って、仲良くして行って欲しいとの思いを込めて翔斗と大樹の父がつけました。

そんな親の思いとは、違っていのしし年に産まれたせいか、猪突猛進型で、我が強いです。でもまだ4才だし仕方ないとは思っています。これからどんどんいろいろな事を覚えて成長していくんだと信じています。

毎日毎日、兄弟ゲンカばかりしていますが、何かあればお互い助け合ってはいるし、とても仲の良い兄弟なので、このままずっといい兄弟関係が続いてくれる事を望みます。

なんと言っても健康が一番！これからも大きな病気などせずに元気一杯で自分の夢に向かって成長して行って欲しいです。(母)

平成5年のお正月、待望の第一子の誕生を3ヶ月後に控え、子供の名前をあれこれ考えていた。妻と激論？を交わした結果、男の子なら「たいき」、女の子なら「もえ」と名付けることにした。大樹と書いて「たいき」と読む。大樹町と奇しくも全く同じである。



私たち夫婦は川崎と東京の生まれであり、昭和40年代の高度成長時代に小中学校を過ごした。京浜工業地帯のまっただ中で、お世辞にも自然環境に恵まれていたとは言えない。体育の授業で校庭を走ると、大変息苦しく、バタバタと生徒が倒れた。そんな時代であった。光化学スモッグが原因とわかったのは、このすぐ後であったと記憶している。

大人になって、この反動かどうかは定かでないが、私たち夫婦は何故か北海道の大自然に魅了されて、結婚後も何度か北海道を旅していた。全国的に有名な観光地にはあえて行かず、地元の民宿やユースで仕入れた情報をもとに、のんびり北海道の大地に浸るのがお気に入りであった。どこまでもまっすぐな道、丘から見渡す地平線、手つかずの海岸線、親切な人々、もの悲しい廃線跡…、数え上げたらキリがない。大樹という字をあてたのは、美瑛の丘に立っていた巨木の雄大、かつ、孤高な姿が強烈な印象として残っていたからである。これは妻も同感であったようだ。北海道の冬は極めて厳しい。そんな厳しい環境下であっても、しっかりと大地に根を張り、時間をかけて人生を歩んで欲しい。ありきたりだが、そんな願いを込めた「たいき」である。

大樹は今年から小学生になり、少しだけお兄ちゃんになった。三才下の弟の世話も自分から進んでするようになった。夏休みが終わり、最初に習った漢字が「大」という字で、えらく喜んでいて。家族4人で北海道を旅するのも、もうすぐかも知れない。大樹町のホロカヤントウ沼はまだヤブの中でヒッソリとしているのだろうか。楽しみである。
(父)

埼玉県大宮市の大樹さん

特別住民番号2144

子供の名前を“大樹”とつけたのは、母の私でした。もちろん主人もいろいろ考えていましたし、私の母も義父母も初孫ということもあり、妊娠初期の頃から楽しみに考えていたことと思います。でも、「お母さんが、一番たくさん名前を呼ぶんだから、お母さんであるあなたが決めるのが一番良いと思うよ」と、いう義母の言葉で、私が決めることになったのです。



名前の本を買ったり、他の人の話を聞いたりして出した結論は、画数はどうでもいいから、好きな字で好きな音を考えようと思いました。そこでまず浮かんだのが“大”と書いて“ヒロ”と読むことでした。私はなぜか小さい頃から、“ヒロ”という音が好きで、大好きだったぬいぐるみの名前も“ヒロくん”だったし、考えてみると初恋の人も“ヒロくん”でした。“大”という字も単純ですが、男らしく伸びやかな感じで良いのでは、と思いました。そして“樹”は、やはり内孫で初孫でもありますし、しかも妊娠中、男の子が欲しいと願っていた唯一の人でもある義父の名前から一字いただき“大樹”となりました。私はもちろんですが、まわりからも良い名前だとほめられて、とてもうれしかったものです。

今では“大樹”も4歳。去年は弟も生まれ、良いお兄ちゃんとしてがんばっています。これからも、大きくすくすくと伸びて行って欲しいです。(母)

大樹と飛鳥(弟)

弟の“飛鳥”という名は大樹がつけたものです。大好きなヒーローの名前からとったようで毎日“アスカちゃん”とうれしそうに呼んでいます。

神奈川県横浜市の大樹さん

特別住民番号2145

開町70周年おめでとうございます。

我家の長男は貴町より名前をいただき、大樹=DAIKIと名付けました。鹿児島生まれの主人は親の転勤で全国各地をまわりましたが、一番楽しく思い出深い地が帯広だそうです。学校から帰るとランドセルを放り投げ、スキー三昧の冬(なぜかスケートではなくスキーだったそうです)。



かごにいっぱいのおもろこし、一升びんに入れて新聞紙で栓をした牛乳等、今だに

帯広の話をする主人の顔は少年の顔になってしまいます。

主人の仕事上、東京を離れる事は無いのですが、帯広の近くに主人の名「春樹」の一字が入った大樹町があると知り、主人の少年時代の思い出と十勝の雄大な自然の様にたくましい子に育ててほしいとの思いをこめ、貴町の名、大樹をいただきました。長男の町大樹町を一度おとずれてみたいと思い、生後5ヶ月の夏(昭和59年)家族で帯広経由で来町しました。想像していたより以上に大きく、きれいな町に感動し、また、国鉄民営化で廃線が決まっていた広尾線(たしか?)大樹駅では大樹駅の入場券を購入したのですが、長男の名付け理由を話すと駅員さんが新生駅から大樹駅までの乗車券を勧めて下さい。

「新生から大樹へ」

ここでもまた感動しておりました。

あれから14年、今年中学三年になった大樹ですが、いつか、大樹町を訪れた時彼はそこで何を感じ何を考えるのでしょうか。

開町七十周年をむかえ、これからの益々の御発展をお祈りしております。(母)

(川東 祐子)
